

【秘書広報課長補佐】 お待たせをいたしました。

定刻の時間となりましたので、ただいまより平成28年 7月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行していきたいと思っております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、ご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後は切ってくださいようお願いいたします。

終了は14時30分を予定いたしております。ご協力よろしくをお願いいたします。

それでは、市長、お願いいたします。

【市長】 皆さん、こんにちは。7月の定例記者会見でございます。

皆様のおかげをもちまして、6月議会、無事終了いたしました。ありがとうございます。

また、議会中でありまして、今月の17日に与党の整備新幹線建設推進プロジェクトチームの検討委員会に出席させていただきました。4月25日以来、2回目の意見陳述をさせていただきました。この中で申し上げましたのは、動く歩道の設置ということをお願いしたいということで、乗り換えの利便性もありますけれども、敦賀駅における乗り降りの利便性を何とか国のお金でお願いしたいということをお願いしてきた次第であります。やはり敦賀の方は西の方に市街地、また観光地も集中しておりますので、何とかこのムービングウォーク、動く歩道を実現したいというふうに思っているところであります。

また、おくのほそ道の風景地ということで、同じ17日に文部科学大臣に文化審議会から「けいの明神」を追加指定とする内容の答申がされまして、今後、官報を経て名勝指定されることとなりました。これにつきましては、非常に敦賀としてはうれしいことでありまして、気比神宮の価値が認められたということでもありますので、これを活性化していきたいということをおもっております。

そういう意味では、アクアトムから気比神宮までの動線をつくりながら神楽の活性化ということを含めてやっていけたらいいなということを目指してまいりたいと思っております。

続きまして、赤レンガ倉庫ですけれども、赤レンガ倉庫、今月の12日に8カ月で10万人の節目を迎えることができました。ミュージアムの杉原千畝の映画、またイルミネーションのミライエということがありまして、いろんな盛り上がりの中で当初の見込みを大きく上回っておりますけれども、この勢いをとめることなく、このままにぎわいにつなげていきたいというふうに思っております。

それから最後ですけれども、先日、関西経済連合会と関西大学との共催シンポジウムということで、立地協で4市町のほうで「日本とエネルギーの未来を考える」というシンポジウムに出席させていただきました。目的は、やはり電力の供給地と消費地で意識の差があるので、私らの気持ちをわかっただけのような取り組みをしたいということでさせていただきます。

以上が最近あった出来事でございます。よろしく申し上げます。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、事業発表をお願いいたします。

【市長】 事業発表につきましては4点ございます。

1つ目は、平成28年度敦賀市職員採用候補者後期試験の実施についてであります。

今年度は、短大、高校卒業程度の事務職及び技師と保育士、医療職等の資格専門職を募集します。受付期間は、8月5日金曜日から19日金曜まで。1次試験は9月18日、敦賀市立看護大学で行います。2次試験は10月中旬、また最終合格発表は10月下旬を予定してお

ります。職員の募集に当たりましては、定年退職等による欠員補充のほか、定員の適正化、福祉関連を初めとする資格専門職の継続採用を念頭に実施することといたしました。

それから2つ目でございますけれども、映画「サクラ花」の上映会及びトークショーの開催についてのご案内です。

こういうパンフレットもお配りしていると思いますが、大戦中の昭和20年7月12日に敦賀市も空襲を受けまして、多くの犠牲者を出したところであります。ことしは71年になりますけれども、だんだんと忘れられていくということで、パンフレットにも書いてあるんですけれども、7月9日に敦賀市戦没者戦災死没者追悼式というのをやりますけれども、年々参加も少なくなってきましたので、そういう意味ではやはり戦争の悲惨さとか平和の尊さ、命の大切さを再度考える機会をつくっていききたいということで、平穏な日常ということを改めて感謝する日にしたいなということで計画しました。今回の上映の後、本作品の主演を務める大和田健介さんと父親で敦賀観光特任大使の大和田伸也さんによる親子トークショーも行われますので、市内外からの多数の来場を期待しております。

それから3つ目でありまして、今着ておりますが、福井国体開催800日前記念イベントの実施についてということと、職員用福井国体PRポロシャツの作成及び着用についてということとあります。

平成30年に開催されます福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会の開催まで、いよいよあと800日余りとなりました。そこで、市民の方々へのPRや機運を高めるために、敦賀市で開催される水泳の競泳競技開催前800日前の7月7日に記念イベントとして総合運動公園ロビーにカウントダウンウォールを設置し、お披露目会を開催いたしますので、よろしくお祈りいたします。

また、今着ておりますけれども、私を初め副市長、教育長、各部長が着用しておりますのは、このたび市で作成しました職員用の福井国体PRポロシャツであります。来庁される市民の方へのPR及び市職員の機運醸成を目的に作成し、エコスタイル期間において着用を推進します。ポロシャツについては自己負担といたしましたので、希望者のみの着用となりますが、名札のストラップにつきましては全職員に配布させていただいております。今後もさまざまな取り組みを行い、福井国体成功に向けて市を挙げて盛り上げてまいりたいと思っておりますので、よろしくお祈りいたします。

最後に、暴力追放敦賀市民会議決起大会のご案内です。

ことし2月23日に本町1丁目の指定暴力団組事務所前において発生した拳銃発砲事案は、市民の生活や治安意識に大きな影響を及ぼしているところであります。暴力団の対立抗争が市民生活の脅威となっているこの時期が市民の暴力団排除の機運を高める絶好の機会と捉え、市民による暴力団排除意識を具体的な行動として実現させるとともに、地域からの排除、さらには組織の弱体化、壊滅を図るという目的で、7月16日土曜日10時から行います。場所は、決起集会が南公民館、街頭行進が本町1丁目、国道8号線沿いのアーケードを予定しております。

ぜひよろしくお祈りいたします。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問を受けたいと思っております。

最初に、幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 1点、国体関連の皆さん着ている素敵なポロシャツについてなんですが、何種類色があって、一般販売もあるのか、教えてもらえますか。

【教育委員会事務局長】 色は8色ございまして、一般販売、市民の方への販売は今のところは予定しておりません。あくまでも職員が購入して着用してPRするというところでございます。

【記者】 8色、何色か教えてもらえますか。今見える以外にもあるんだろうけれども。

【教育委員会事務局長】 申し上げます。白、黒、紺色、ピンク、緑色、赤、青、黄色でございます。

【記者】 着用するのは部長級以上の方ですか。

【市長】 全職員。自分で買った人です。

【記者】 1枚いくらですか。

【市長】 1枚2,000円です。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【記者】 暴力追放市民会議の決起大会でお伺いしたいんですが、これはこれまでも実施されたことはあるんでしょうか。

【市民生活部職員】 今回発生した事件、2月の事件をもとに行うものですので、敦賀市においては初めてのことでございます。

【記者】 事件は2月に起こったと思うんですが、このタイミングになった理由は何かございますか。

【市長】 暴力追放敦賀市民会議はもともとありましたから、その中でやろうと決まったということだと思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。発表項目につきまして質問がありましたら挙手をお願いいたしますと思います。

【記者】 先ほども質問出ましたけれども、ポロシャツは国体PR及び職員の機運醸成のためというのですけれども、いつからですか。きょうから。

【市長】 私は、今日頂きました。

【記者】 職員の方、どれぐらい購入されたか。何人ぐらい購入されたか教えていただけないでしょうか。

【教育委員会事務局長】 購入枚数は約800枚でございます。複数枚買った方もおられますし、買わなかった方もいらっしゃるのです、800枚ということでございます。

【記者】 これは職員の方が、節電とかエコとかというのものもあるし、着て勤務するのを市として推奨しているという捉え方でいいんですかね。

【市長】 はい。

【記者】 わかりました。

それと、これは敦賀独自なんでしょうか。ほかでもやっているんでしょうか。

【教育委員会事務局長】 福井県内でも同じようなことをやっていたら市はたくさんございまして、福井市、小浜市さんなど、大野市さん以外7市で取り組んでおられるとお聞きしております。

【記者】 全然話違うんですけれども、職員採用で、はっきりした記憶ないんですけれども、たしか前期の試験結果、ちらっと目にしたときに、看護師さんが採用希望人数の割に応募者が少なかったような気がするんですけれども、例えば看護師の取り合いが結構激化しているとか、そんなようなことはあるんでしょうか。特段なければ別に結構なんですけれども。

【敦賀病院事務局長】 今、記者さんおっしゃったように、病院での看護師というのはまだまだ不足ぎみでございますので。特に地方から都会へという、これは医師も同じなんですけれども、そういう状況ですので、看護師の確保についてはこれからも重要な一つだと思っております。

【記者】 これは社会的な背景は何かあったりするんでしょうか。制度面、7対1看護と10対1看護がどうか、例えば高齢者福祉のほうに人が行っているとか、民間企業が経営がよくなっているのでもそっちに奪われているとか。どのような背景があるんでしょうか。

【敦賀病院事務局長】 まず一つ考えられるのは、資格を持っているけれども実際に働いていない方が結構いらっしゃるというのが看護師不足の大きな一因なのかなというふうには思っております。

【記者】 ポロシャツなんですけれども、デザインは、そのワッペンというか、そういうのは固定なんです。選んでいるわけではなくて固定なんです。

市長、鮮やかな青色のポロシャツ、目にまぶしい青色なんですけれども、青色を選ばれた理由を伺えますか。

【市長】 一番さわやかな色かなと思ひまして選びました。

青色、好きです。

販売は考えてないんですけれども、団体とかで、もし使いたいという話があれば、一応ご相談には乗ろうかなということは考えております。

【記者】 先ほどの暴力追放敦賀市民会議、もともとある組織と伺ったんですが、どういう組織で、いつからあるんですか。

【市民生活部職員】 申し上げます。もともとは、過去から暴力団の排除ですとかそういった庁内の窓口カウンターとか、あと市内にもいろいろと小さなのぼりを設置いただいているのがご覧いただけるかもしれませんが、これまでから暴力団の追放も含めて、敦賀市の全体の安全、安心を図るために、暴力追放敦賀市民会議というのは14の団体に加入いただいております。例えば、青少年健全育成敦賀市民会議ですとか敦賀市区長連合会ですとか、そういった代表の方に役員になっていただいて組織されているものです。

今手元に、いつから発足したものかというのはなくて申しわけないんですけども、過去からずっと継続して活動している団体でございます。

【記者】 この会議を組織しているのは市内の各種団体ということなんですか。そして会長を市長が務められていると。

【市民生活部職員】 そうです。市長が会長です。

【記者】 わかりました。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へに行きたいと思います。こちらも幹事さんから、ありましたらお願いいたします。

【記者】 参院選のことで一つ伺いたいことがあります。自民党の山崎候補の出陣式に市長も出席されていたと思うんですが、私、直接見てないんですがそう聞いたんですが。市長の選挙のとき、自民党は相手陣営の組織で、山崎候補も相手陣営で応援演説をされていたんですが、その候補のところに出陣式に行った理由を教えてください。

【市長】 前の選挙のときは抜きにして、現職の国会議員さんですから、敦賀市はお世話になっておりますので、そういう意味で行ったということで、他市町と一緒に行かせていただきました。

【記者】 たしか、ほかの市町の首長もほとんど来ていたと思うんですが、そういう首長の組織として行ったのか、敦賀市長個人というか敦賀市の首長として行ったのか。ほかの市町の首長と一緒にの連盟なので行ったのか。

【市長】 「創生福井」首長の会というのがありますので、そういうところの呼びかけもありますけれども、両方の立場で行ったということですね。

【記者】 わかりました。

あともう1点、毎回聞いているんですが、廃炉交付金のエネルギー構造転換理解促進事業、前回の会見では全く進捗はないということでしたが、それ以降、この1カ月で動きはありますか。

【市長】 きょう時点では、具体的な話はないです。ただ、近々教えていただけるということ、大体決まりそうだということを聞いています。

【記者】 決まりそうというのは、国の要綱が決まりそうということですか。

【市長】 そうですね。

【記者】 いつですか。

【市長】 きょうのシンポジウムで、ちらっと立ち話でお聞きしただけなので。また正式には話があると思います。

【記者】 それは国の担当者が敦賀や美浜に来て説明するんですか。それともこっちから行って話を聞く。

【市長】 それはこの後になると思います。

【記者】 大体いつぐらいになるんですか。

【市長】 わかれれば言えるんですけども。

【記者】 それはまだ不明で。ただ近々決まりそうというのをどなたに聞いたんですか。

【市長】 見てないので。きょうのシンポジウムのお話したので。

【記者】 経産省の人と。

【市長】 そうですね。

【記者】 わかりました。

【市長】 ああそうですか、よかったですと話した。そこで終わりました。

【記者】 核燃料税についてお伺いしたいんですが、6月24日の県議会で正式に核燃料税の改正案が可決されたと思うんですが、配分などの割合について立地協で対応されるということだったと思うんですが、その後、何か進展はありましたでしょうか。

【市長】 今後、決まりましたので、配分割合については立地協で足並みをそろえて県のほうにお願いしていくというスケジュールを調整しているところです。

【記者】 何月ごろにそのテーブルに着くとか、そういうのはありますか。

【市長】 多分7月中には行くと思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。ご質問がありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 1つ、この間、6月議会の一般質問でも出ていたことを見解をお聞きしようと思うんですけども、アクアトムに原子力機構が県の所有分のところに原子力機構が入居することになったんですけども、形の上から見て、もともと大家というか、彼らが持っていた建物をただあげて、そこにまたそれなりのお金払って入居させてもらうというのは、はっきり言って入るほうも入れるほうも節操がない、何考えているのかなと正直言って思っているんです。市の持ち分ではないので、どうこう言う立場にひょっとしてないかもしれないですけども、以前からこのお話は多分市長もずっと前から耳には入っていたはず。私のところにも入っていたので、市長のところにはもっと前から入っていたはずだと思われるんですけども、どういうふうにお感じか見解を教えてくださいませんか。

【市長】 今おっしゃったように、市とすると、市の持ち分の中ではないので、どういういきさつでどういうふうになったかというのは存じ上げないんです。ですが新聞とか読んでいる話になりますけれども、もともと全部持っていれば維持費も高くなるでしょうし、そういう維持はできないという判断をされたと思います。そこで私どもが譲り受けたときは、要は資産価値がないので無償譲渡ということですから、利用価値もないということで受けましたので。ただ、その後、適当な場所を探していたらそこがよかったんじゃないかなと思いますけれども。そうすると、コスト的にはプラスになったんじゃないかなということだと思いますけれども。持っているよりも。

【記者】 以前のまるまる持っているよりは安くなっているんじゃないかなと。

【市長】 そういう推測ですけども。

【記者】 原子力の話なんですけども、もんじゅについてなんですけれども、国のほうでの検討会が終わって、あとは文部科学省のほうでどういう運営主体にするかという話を進めているかと思うんですけども、まずそれについて、市長、例えば進捗状況がお耳に入っていらっしゃるとか、そういうようなところは現在進行形として何か聞いているお話とかございますか。

【市長】 全くないです。ですから、どういう状況になりそうとか、どういうふうになっているということも全く知らないです。ですから、あり方検討委員会の報告があって、それについて文部科学省のほうで何らかの準備をされているんだろうなという推測でしかありません。

【記者】 推測の中で恐縮なんですけれども、近く、例えば夏にもというようなスケジュール感で新しい運営主体を示したいというふうなお話も文科省のほうであったんですけども、その新たな運営主体について、改めて市長としてはどのようなことを求めたいかというところをお聞きしたいんですけども。

【市長】 新たな運営主体ということですけども、あり方検討委員会では、前も言わせていただきましたけれども、今までの経過も含めて丁寧な現状分析と課題の抽出が行われたというふうに思っていますので、一応要件の提示をされましたから、その要件提示の中で探していけるだろうなと。

私ども一番心配しますのは、今の組織のモチベーションが下がったときにどうなるかというのは心配ですので、モチベーションが下がらないままということと、もう一つは、シフトする上でやはりコストが生じますので、そこにお金を投入しなければうまく回らないと思いますので、きちんとそこに、敦賀市にお金を落とすのではなくて、組織として予算をつけていただいて運営していただきたいというのが一番大事なところだと思っています。

ます。

【記者】 わかりました。

もう一つ、原子力防災ですけれども、8月の末に県が高浜とおおいで広域避難を含めた訓練をやるという発表があったんですけれども、一応敦賀市としては、例えば避難する人の受け入れ先であったりとかそういうお立場にあると思うんですけれども、市長としては、例えば訓練、関わるに当たって、どのようにして関係構築といいますか体制づくりというのを進めていこうというふうにお考えですか。

【市長】 一回やってみないと、というところもあると思うので、実際にやることでいろんなことがわかるんだろうと思います。私の奈良に行ったときの経験からいくと、やはり自分たちも不安に思っていますけれども向こうも不安に思っているということがありましたし、その不安を解消するために人的な交流も要るでしょうけれども、どこできちんとして、あなたたちのところに行きますよみたいなことも必要でしょうから、今度やられることを見て、いろいろとまた検証していけばいいんじゃないかと思います。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 市長、1点だけ。新幹線の駅ができる東側について、市長の考えを聞きたいんですけれども、どういう場所と位置づけているかという。

【市長】 駅の東側ですので、新幹線のホームから川までという距離とすると70mがマックスだと思います。ホームにいろんな付随のものができたり、いろいろ道をつくったりしますと、50mまでないのかもしれないかもしれませんが、幅として。ですから、その幅でいかに有効に使っていくかということを考える先に、まず最初にムービングウォークを使って駅西に出てきてもらうということを最優先に取り組んでいます。その最優先のことがまずできなければ、東側をつくるメリットがほとんど見出せないんじゃないかなと。東西に抜ける道路ということ当初計画したんですけれども、いろんな事情から在来線と上とのすき間が十分にとれませんので、高架で間を抜くということが不可能な幅ですから、そうしますとやはり駅東というのは西側の市街地から独立した何らかの使い道ということを考えていかなくてははいけない。そういう意味では、いろんな可能性を模索しているところであります。

【記者】 市側が示している素案としては、東側の駅前というのはバスとかタクシーの乗降場とかにとどまると思うんですけれども、今後それより広がるという可能性はあるんですか。

【市長】 今の段階でいいますと、とりあえずムービングウォークが決まらないことには、そちらのほうは具体的に進められないという気持ちを持っています。余りそちらに力を入れているということがあると、ムービングウォークが消えてしまうんじゃないかという不安がありますので、そういう意味で、できるだけそちらのほうはコメントしたり発表したりしないほうがいいのかと思っています。

【記者】 わかりました。

【記者】 先ほどもちょっとありました原子力防災なんですけれども、敦賀市さん、今月、例えば高浜とかから敦賀市が受け入れる際のマニュアルを具体的なやつを策定されたかなと思うんですけれども、あれを受けて敦賀市として訓練をすとか、そういうご予定というのはありますでしょうか。県にあわせてとかでも構わないんですけれども。

【市民生活部職員】 うちとしましては、県の訓練にあわせて、県の訓練でうちのほうも高浜市さんとかおおいさんのほうを受け入れたいという要望はしますが、市の独自でその受け入れ訓練をする計画は今のところございません。

【記者】 その要望というのは、8月の訓練に向けて、敦賀市としてもやりたいんだけれどもというような要望をこれからするというのでしょうか。

【市民生活部職員】 今までもしておりますし、これからも8月の訓練に正式な発表があれば、そのようにしていただきたいなどは考えております。

【記者】 もうそろそろ7月に入ってしまうんですけれども、いつごろそういうのは決まるものなんですか。敦賀市が入るかどうかというのは。

【市民生活部長】 正式に決めるのはあくまで県ですので、うちのほうからは早い段階でその結果はいただきたいという要望はしますが、まだ正式な発表の場までは行っていないと思います。

【記者】 せっかくなので、NHKの大河ドラマの関係なんですけれども、7月の下旬にも大谷吉継役の片岡愛之助さんを招いてトークショーを開くなどのイベントもあるんですけども、それにとどまらず、敦賀城主としての大谷吉継の魅力をどのように敦賀としては生かしていこうと。一つのきっかけとして、どのように生かしていこうというふうにお考えかというのを市長に一言お尋ねしたいと思います。

【市長】 このトークショーに合わせて、博物館とかでイベントとかもする予定です。これをきっかけにしてどうやって大谷吉継公を広めていくかというところ、なかなか難しいところがあって、結構謎の人なので。もともとのお城の位置とか、それぞれの場所にある門があったりとか史跡がある場所もばらばらですので、その辺をどうやってつなげていくかというのは今後の課題かなと思っていて、ことしはちょっとそういうことまで手を広げてはできないだろうと。そうしますと、地元にあります「よっしー」がいますので、「よっしー」を知ってもらうのが精いっぱいかなというふうに思っております。

あとは部長がきちんと補足します。

【産業経済部長】 今市長がおっしゃいましたとおり、今回やはり「真田丸」というところで敦賀城主、大谷吉継という部分の知名度を幅広く、市民も当然知っていただくところもありますし、それ以外の方にも大谷吉継、敦賀城、そしてひいては敦賀というところで知っていただくというきっかけになるかなと。

それと、今市長もおっしゃいましたとおり、教育委員会とタイアップしまして、市立博物館で特別展「大谷吉継と西軍の関ヶ原」と題しまして、7月23日から9月4日まで、そういった特別展も開催する予定をしておりますので、そういった形で一人でも多くの方に敦賀に来ていただいて、敦賀の大谷吉継というところでそういった知名度アップを図っていきたいと考えております。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして7月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後2時36分 終了